

地域医療の2つの「学」～診療所医師が大学でしようとしていること～

- 地域医療「学」とはなんぞや？
- 二つの学：学習と学究
- Break Slides
- 自分が経験してきたこと
- あれやこれや(All that jazz)
- そして、いましていること、しようとしていること

地域医療「学」とは、大学ではないプライマリケアやセルフケアの現場である人々が暮らす地域における医療とそれを支える学問性だと思っています。自分が、高知県山間のへき地診療所で行ってきたことは、その場所における臨床の日々であり、それを基にした訪問してくる学生や研修医の教育(時間の共有)と日々の仕事から生まれてくる疑問や仮説を基にした研究でした。「地域医療、即ちそのフィールドにおける臨床」だとシンプルに思っています。その臨床の経験や核があって初めて教育と研究が生まれてくる。

また、自分の好きな言葉に、「人生は味わいを深める旅である」というのがあります。診療所医師として勤務した頃からずっとそれを目指してやってきました。ユーモアや楽しさは、とても大事です。そんなことを織り交ぜながら、話したいと思っています。

それから、一期一会といいますか、これも何かの縁です。みんな、また会えるなといいなと思っています。

井上和男
帝京大学医学部ちば総合医療センター
地域医療学
e-mail inouek@med.teikyo-u.ac.jp

